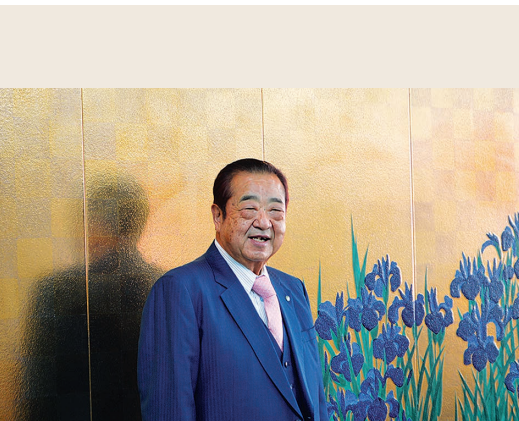


## 「モノを包む」から「環境を包む」へ

### 豊かなパッケージを目指す

#### 株式会社 ダイワボックス



#### 株式会社 ダイワボックス

代表取締役社長：大西 康純 氏  
 本社：大阪府東大阪市高井田本通7-1-11  
 創業：1951年（昭和26年）1月  
 社員数：130名

事業内容：

- ・セロファンならびに各種透明フィルムの販売および製品の加工
- ・プラスチックならびにアルミ箔類の販売および製品の加工
- ・各種紙類の販売ならびに各種紙製品の加工

軟包装のエキスパートとして食品包装、医薬品包装、電子部品包装をはじめ機能性包装（ふとん圧縮袋、緩衝包装袋、抗菌手袋など）についても積極的に取り組んでいる(株)ダイワボックス。お客様の要望に品質とスピードそして環境との共存をもってお応えし続けている。今回、代表取締役社長の大西康純氏に、提案力を強みに成長してきた会社の歴史について伺いました。

#### ― 戦後の復興と共に創業した、前身企業の日栄商会セロファン部

当社は、1951年に父の大西節蔵が大阪市南区問屋町で日栄商会セロファン部として創業しました。創業当時から一貫してパッケージ業界で仕事をしています。父がこのパッケージ業界に飛び込んだきっかけは、戦後の復員業務にかかわっていたことが関係しています。復員業務中に「モダンパッケージ」という海外製の雑誌を手にする機会があり、それを見るとアメリカでパッケージ業界がすごく伸びていることを知ったそうです。日本でも絶対伸びるだろうと思った父は、透明フィルムによるパッケージを作ることを決め創業しました。

当初はたった一人で仕事をしており、自転車で大阪市内を駆け回り営業していました。門前払いを受けることもあり、非常に苦勞をしたそうです。それでも「命がけでやります。」という父の思いを汲んでくれる企業もあったおかげで当社の礎を築くことが出来ました。

#### ― 徹底したクレーム処理で信頼獲得

同年には日栄商会セロファン部から独立し、「大和セロファン」を立ち上げることとなります。会社名の「大和」の由来は、聖徳太子の言葉の「和をもって貴しとなす」からいただいたもので

す。社員が和を重んじ、その和を大きくしたいという願いが込められています。翌年には改組し「大和セロファン株式会社」を設立、従業員は5名で法人化しました。株式会社になったものの小規模の会社です。土台固めが必要でしたので、長期的な仕事ができる優良企業（有名企業・大手企業）の仕事を探さないとはいけません。



創業時の大和セロファン株式会社

そうして始まった営業活動は長期戦でした。信頼を得るには、地道な訪問と迅速なクレーム処理が肝心です。当時のセロファン業界は強気な商売が蔓延しており、売ったら終わりという企業が多かったのです。当社は売ってからもクレームがあれば夜でも駆け付け真摯に対応しました。こうした地道な努力は業界でも注目され当社は確固たる地位を獲得できました。

## ■同社が手掛ける製品



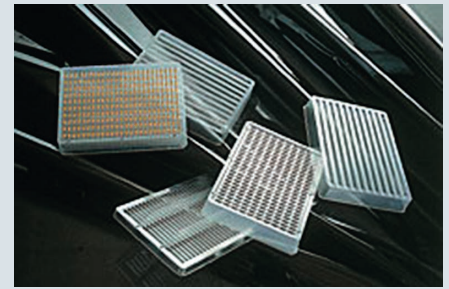
### 味と香りと鮮度にこだわる食品包装

新鮮味あふれる食品やお菓子のパッケージ。おいさと鮮度と安心をそのまま包み込んで、食卓へお届けする。



### 健康を守る、医薬品包装

かけがえのない“いのち”のそばで活躍するパッケージ。顆粒、錠剤、液剤など市販薬品用から病院用まで幅広く対応。



### ハイテク素材を包む電子部品包装

デリケートなハイテク電子素材を護り届けるパッケージ。製品仕様に応じた多彩なバリエーションを取り揃えている。

## — 食品業界の発展により飛躍

創業から10年経つと会社も順調に成長し、新たな一步を踏み出すために社名を「株式会社大和パッケージ」に変更しました。

1950年代後半から食品業界が急速に発展します。これはインスタントラーメンの需要が増えたからです。当時は乾燥食品の包装が主流でした。さらに、1960年代に入ると食品を保存するための包装技法である、真空、ガス置換、ボイル、レトルトが欧米から入ってきました。これに伴い、プラスチックフィルム需要も拡大し、パッケージ業界の成長と共に当社はさらに飛躍することができました。

1960年代にパッケージは食品産業を支えるひとつの産業として発展しており、各地域では包装技術の普及が活発になっていました。それを後押しするように、1966年には人材育成のために(株)日本包装技術協会が包装管理士講座を開設します。当社では営業部門を中心に包装管理士の取得を推奨しています。これを持っていないと仕事ができないというわけではありませんが、お客様に良い提案をするためには必要と考えています。資格取得は決して安いものではありませんが、20年先を考えると有益な投資だと考えています。

現在、当社の資格取得者は20名を

超えています。これは業界でも屈指の人数です。当社がお客様と良い製品を生み出すことができるのは営業マン達がニーズを聞き良い提案をできるからだと自負しています。

## — 食の安全を確保するため、

### 名神化学株式会社設立

1972年に名神化学(株)を設立しました。名神化学は当社の印刷部門を担うグループ企業です。設立の目的は、責任の持てる軟包装資材を供給できる体制を作るためです。物品の流通量が増えると安全に対する要求も厳しくなります。そうすると製造管理や包装システムの改善が求められます。

また、1976年に医薬品のGMP基準が定められたのをきっかけに、さらに厳しい管理が必要になりました。これまでスリッターや製袋加工は協力業者に委託していましたが、目の届く範囲に製品を置き、安全を確保しなければいけないという想いが芽生え設立しました。



名神化学株式会社

名神化学は国内外問わず、高い評価を受けています。それは軟包装衛生協議会が作成した加工衛生管理と構造設備の基準を満たし認定審査の合格を積み重ねてきたからです。この認定審査は厳しく2期で認定をはく奪される企業もあります。当社が年々厳くなる基準を満たし続けたのは、設備投資や社員の日々の細かい心がけがあったからこそです。

## — 今後の事業成長に向け

いかに事業を維持・発展させていくかを毎年考えていますが、結局のところは社員の意識にかかっています。毎年会社の目標を掲げ、社員に周知しますが、それを基に営業を行っているのですが、毎年目標を達成するのは同じメンバーです。多くのメンバーに目標を達成してもらうためにどうやる気上げる仕組みを作れば良いのか試行錯誤しています。

仕組みづくりは私が実施すべきことですが、社員の皆にはすぐにでも経営目線を持っていただきたいと思っています。会社に貢献するにはどうすれば良いのかと常に考えながら行動できる人間になってほしいと願っています。

## — 貴重なお話をいただき、誠にありがとうございました